

2017年5月10日
シスメックス株式会社
コーポレートコミュニケーション本部
I R・広報部長 岡田 紀子

シスメックスグループ中期経営計画を策定 ～将来に向けた持続的成長を実現するために、実行スピードを加速～

シスメックス株式会社(本社:神戸市、代表取締役会長兼社長:家次 恒 以下「シスメックス」)は、グループの高成長の持続とさらなる収益力の強化、経営の高度化に向けた変革を推進するために、2020年3月期を最終年度とするグループ中期経営計画を策定しました。

本グループ中期経営計画では、長期経営目標のポジショニング達成の仕上げ期間として、今後3年間で取り組むべき事項を設定し、最終年度の2020年3月期に売上高3,500億円、営業利益720億円の達成を目指します。

世界のヘルスケア市場は、先進国における医療費抑制による効率化のニーズや新興国における経済発展に伴う医療インフラの整備と高度化など、今後も継続的な成長が期待されています。また、先進国を中心にビッグデータ解析などの情報処理技術の進歩と積極的な活用、遺伝子・分子診断技術の進歩、再生医療の進展など、新たな成長機会の創出も見込まれています。

シスメックスは、特徴のあるグローバルなヘルスケアテスティング企業として、グローバルでの拠点整備、品ぞろえの拡充とソリューション提案の実施、先進的なサービス&サポートの提供など独自の戦略展開により、持続的な高成長を実現してきました。

本グループ中期経営計画では、ヘマトロジー・尿検査分野・血液凝固検査における製品ラインアップの拡充やグローバルでの販売・サービスの拡充、アジアにおける免疫ビジネスの拡大など収益力をさらに強化するとともに、長期経営目標達成に向けて、独自の技術を活用した競争力の高い製品開発やグローバルな事業戦略の展開のために戦略的な投資を実施していきます。また、2020年以降の継続的な成長を見据え、実行スピードを加速し、事業ポートフォリオの変革を推進するとともに、人材やIT基盤など変革への投資を行います。

持続可能な社会の実現に貢献していくために、製品・サービスの提供を通じて医療課題の解決に取り組むとともに、環境への配慮、コーポレート・ガバナンスの強化、ダイバーシティの推進を通じて、多様なステークホルダーの皆さまに対してシスメックス独自の新たな価値を提供していきます。

株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行っていきます。

シスメックスは、グループ企業理念「Sysmex Way」のミッションとして掲げる「ヘルスケアの進化をデザインする。」のもと、長期ビジョンとポジショニングの達成に向けて、本グループ中期経営計画をスピード豊かに実行し、次のステージにふさわしい企業への進化を目指します。

1. 長期経営目標

(1) 2020年に向けた長期ビジョン

A Unique & Global Healthcare Testing Company

(2) ポジショニング

- ① ヘマトロジー、血液凝固検査、尿検査分野におけるグローバル No.1 (アライアンス含む)
当社の中核事業として、グループのさらなる成長を支える収益基盤を構築します。
- ② アジア IVD (検体検査) 市場におけるリーディングカンパニー
地理的な優位性を発揮し、ヘマトロジー分野以外の免疫等の成長分野においてもアジア市場で確固たる地位を築きます。
- ③ 免疫検査分野におけるユニークで存在感あるプレーヤー
他社にないユニークな強みを発揮し、中期の成長ドライバーとして、グループの成長を牽引します。
- ④ 個別化医療に貢献する先進的なグローバルプレーヤー
先進的な技術に基づく検査(診断)の価値向上を通じ、グループの成長加速とグローバルな存在感を確立します。
- ⑤ 価値と安心を提供する魅力あふれる会社
多様なステークホルダーに価値と安心を提供する魅力ある会社を目指します。
- ⑥ スピード豊かな経営を実践する One Sysmex
グループ全体で最高のチームワークを発揮し、高効率でスピード豊かな経営を実践する企業体を目指します。

2. グループ中期経営計画

(1) 中期目標数値(連結)

	2018年3月期目標	2020年3月期目標	伸長率(3年平均)
売上高	2,750億円	3,500億円	11.9%
営業利益	570億円	720億円	11.7%
営業利益率	20.7%	20.6%	-
ROE	18.5%	20.0%	-
営業キャッシュフロー	450億円	550億円	-
フリーキャッシュフロー	150億円	300億円	-

(2) 事業別売上目標

	2018年3月期目標	2020年3月期目標	伸長率(3年平均)
HU*	1,925 億円	2,290 億円	9.3%
ICH*	573 億円	800 億円	15.2%
コアビジネス*	2,498 億円	3,090 億円	10.7%
FCM*	26 億円	80 億円	65.1%
LS*	74 億円	140 億円	44.8%
その他	5 億円	30 億円	-
ネクストコアビジネス*	105 億円	250 億円	57.6%
その他	147 億円	160 億円	0.8%

※事業名については、「4. 機構改革」を参照

(3) 所在地別売上目標

	2018年3月期目標	2020年3月期目標	伸長率(3年平均)
日本	503 億円	617 億円	9.6%
米州	645 億円	809 億円	12.7%
EMEA	680 億円	865 億円	10.0%
中国	672 億円	898 億円	14.2%
アジア・パシフィック	250 億円	311 億円	13.7%

※ 中期経営計画期間における想定為替レート

アメリカドル(USD)	ユーロ(EUR)	中国元(CNY)
110 円	115 円	16 円

3. ポジショニング達成に向けた取り組み

<収益力の強化(コアビジネス)>

- (1) ヘマトロジー分野の市場拡大による収益力の強化
ヘマトロジー分野では、米国における絶対的No.1の達成、中国における2級病院以下への販促強化、新興国における高成長の実現などを通じ、成長を継続し、収益力を強化します。
- (2) 新製品拡販による尿検査事業の拡大
尿検査分野では、尿沈渣検査に加え、尿定性検査(海外市場向け)製品の市場導入により、尿検査の効率的なワークフローを実現し、事業拡大を加速します。
- (3) 血液凝固検査分野のグローバルシェア拡大による収益性向上
血液凝固検査分野では、シーメンス社とのアライアンスを活用したグローバル展開を継続するとともに、血液凝固異常や血栓の検査などで用いられる線溶系試薬の導入を加速し、シェアの拡大を目指します。
- (4) 免疫検査分野における日本、中国、アジアでの事業拡大と収益性改善
免疫検査分野では、肝疾患領域での事業拡大を進めるとともに、中国、アジアにおけるユニーク項目の市場導入を推進し、日本、中国、アジアでの事業を拡大します。また、売上拡大とともに原価低減などによる収益性の改善に取り組みます。

<成長への投資(ネクストコアビジネス)>

- (5) FCM 事業の基盤構築
クリニカル FCM の早期事業化に向け、機器、試薬の開発と市場導入を加速します。また、リサーチ・インダストリー領域での販促を強化します。
- (6) ライフサイエンス事業の拡大
理研ジェネシスや Inostics のラボアッセイ事業の推進、クリニカル PCR 市場導入など、遺伝子関連事業の拡大に取り組みます。また、OSNA™ 法によるリンパ節転移迅速検査の市場拡大を推進します。
- (7) その他新規分野の事業化
超高感度 HISCL™、子宮頸がん検査システム、グルコース AUC(食後高血糖状態モニタリングシステム)など、新たな事業の創出を目指します。

<変革の推進>

- (8) ものづくりのスピードと質の向上
バイオ診断薬開発・生産力の強化を推進します。また、お客様に信頼され続ける高い品質と安定供給体制の強化に取り組みます。
- (9) 業務プロセスの最適化を目指した IT 基盤の強化
サプライチェーンおよびエンジニアリングチェーンのプロセス最適化などの IT 基盤の強化を実施します。
- (10) グループの成長を支える人材育成と人材マネジメントの強化
次世代リーダー人材と高度専門人材の獲得および人材育成の強化を行います。また、グループ人材の強みを活かし、多様な個性が活躍できる環境整備を行います。

<持続可能な社会の実現へ貢献>

- (11) 製品・サービスを通じた医療課題の解決に取り組むとともに、環境への配慮、コーポレート・ガバナンスの強化、ダイバーシティの推進を通じて、多様なステークホルダーの皆さまに対してシスメックス独自の新たな価値を提供し、社会の発展に貢献していきます。

4. 機構改革

ビジネスユニット体制を発展的に解消し、さらなる成長に向けた事業推進体制の強化および戦略実行スピード加速に向けた体制強化を図ります。

(1) さらなる成長に向けた事業推進体制の強化

- ① コアビジネス(ヘマトロジー、尿検査、血液凝固検査および免疫・生化学検査分野)における高効率な事業推進体制の強化
 - ・ ヘマトロジーおよび尿検査分野における戦略立案から製品の市場導入まで、グローバルで統括するHU 事業推進本部を新設
(HU:Hematology(ヘマトロジー)、Urinalysis(尿検査)の頭文字)
 - ・ 血液凝固検査および免疫・生化学検査分野における戦略立案から製品の市場導入まで、グローバルで統括するICH 事業推進本部を新設
(ICH:Immunochemistry(免疫検査)、Clinical chemistry(生化学検査)、Hemostasis(血液凝固検査)の頭文字)
 - ・ コアビジネスにおける診断薬開発を担う第一エンジニアリング本部の新設
 - ・ コアビジネスにおける機器・システム開発を担う第二エンジニアリング本部の新設
 - ・ これら4本部は、戦略にもとづき適宜プロジェクトを編成するなど、相互連携することで高効率な組織運営を行い、事業の実行スピードを向上
- ② ネクストコアビジネス(遺伝子検査など、当社独自の技術を活用した新たな事業領域)における事業推進体制の強化
 - ・ 遺伝子検査およびラボアッセイサービスにおける戦略立案から製品の市場導入、およびそのための製品開発をグローバルで統括するLS 事業本部の新設
(LS:Life Scienceの頭文字)
 - ・ 新たに創出した技術を、研究用途として早期に市場導入を図ることにより、新たな臨床価値を確立するクリニカルイノベーション本部の新設
 - ・ 医療用ロボットのマーケティング、販売・サービスを推進するMR 事業推進室の新設
(MR:Medical Robotの頭文字)
- ③ 分野横断的な価値創造に向けた事業推進体制の強化
 - ・ グループ全体の事業戦略立案に加え、フローサイトメトリー(FCM)、ネットワークソリューション、ラボラトリーオートメーションおよびリサーチ・インダストリー市場における戦略立案から製品の市場導入まで、グローバルで統括する機能を事業戦略本部に集約
 - ・ 世界各国で薬事承認の迅速化を目指し、臨床性能試験を企画、設計する臨床開発部を学術本部内に新設

(2) 戦略実行スピード加速に向けた体制強化

- ① 人事および総務機能の強化
 - ・ グローバルで活躍できる人材の確保、育成強化およびダイバーシティの推進を目指し、人事本部を新設
 - ・ グローバルなリスクマネジメントおよびコンプライアンスの強化を目指し、総務本部を新設
- ② 研究開発支援機能の強化
 - ・ グループの技術戦略立案を推進する部門として、技術戦略本部を新設
 - ・ グループの知的財産機能を強化するために、知的財産本部を新設
- ③ バイオ診断薬の技術開発の強化
 - ・ バイオ診断薬の原料に関する開発などを行うバイオ診断薬技術センターを新設
- ④ 生産および品質管理機能の強化
 - ・ グローバルな診断薬生産に関する戦略を立案し、グループ内連携を強化することにより、高品質な生産を加速する診断薬生産統括部および生産情報管理部を生産統括本部内に新設

- ・ 機器生産に関する品質管理機能強化に向け、品質管理部を機器生産本部内に新設
- ・ グローバルな機器および診断薬の需要予測に基づく高精度な生産計画を立案する PSI 部を SCM 本部内に新設
(PSI: Production(生産)、Sales(販売)、Inventory(在庫)の頭文字)
- ⑤ グローバル販売・サービス機能の再編
 - ・ 日本地域と東アジア(韓国、台湾、モンゴル)地域における販売・サービス機能を統合し、日本・東アジア地域本部を新設
 - ・ グローバルなサービス&サポート機能と、海外の販売・サービス支援機能を統合し、グローバルサポート本部を新設

(注記)

本資料のうち、業績予想などに記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績などが予想数値と大きく異なる可能性があります。